

レジメン名

未治療DLd(皮下)

出典 ダラキューロ配合皮下注適正使用ガイド2021年5月作成

実施部署区分

入院 外来 処置

対象疾患

多発性骨髄腫
進行・再発
補助療法(術前・術後)
未治療

投与中止の基準(ダラキューロ)

ANC	500/mm ³	PLT	2.5万/mm ³ 未満
Infusion reaction	Grade1.2:回復後、再投与可 Grade3:回復後、再投与可(3回出現で投与中止) Grade4のInfusion reaction:中止		
その他	発熱性好中球減少症、感染症を伴うANC減少、出血を伴うGrade3以上のPLT減少、Grade3以上の非血液毒性(ただし、下記を除く) ・7日以内に制吐薬に反応したGrade3の悪心又は嘔吐 ・7日以内に止瀉薬に反応したGrade3の下痢 ・ベースライン時に認められていた、又はダラキューロ最終投与後7日未満持続するGrade3の疲労又は無力症 ・多発性骨髄腫の徴候に伴うGrade3の疼痛		

投与中止の基準(レブラミド)

ANC	1000/mm ³ 未満	PLT	3万/mm ³ 未満
-----	-------------------------	-----	-----------------------

投与減量の基準(レブラミド)

ANC	1000/mm ³ 未満	初回減少:他の毒性を認めなければ減量不要。認めれば1段階減量
PLT	3万/mm ³ 未満	1段階減量
その他	CLcrが30以上60mL/min未満の時、10mg/日 連日投与 CLcrが30mL/min未満の時、15mg/日 隔日投与 透析患者では、5mg/日 連日投与 減量方法:25mg→15mg→10mg→5mg	

1クール期間

28日

総クール数

PDまで

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下 ^{※1}	3-5min	day1,8,15,22(1,2サイクル)
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下 ^{※1}	3-5min	day1,15(3-6サイクル)
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下 ^{※1}	3-5min	day1(7サイクル以降)
レナリドミド(レブラミド)	25mg/body	経口		day1-21
デキサメタゾン(レナデックス) ^{※2}	40mg/body	経口		day1,8,15,22
^{※1} 臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に投与。同一部位の反復投与は避ける。痛みがある場合、減速または中止し、残液を左右反対側の腹部に投与可。 ^{※2} 75歳を超える又は過小体重(BMI:18.5kg/m ²)の患者にはデキサメタゾンを20mg/週で投与することも可能。				

1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、 溶解液まで含む)
1、2サイクル day1、8、15、22 <内服>ダラキューロ投与1時間前 ・レナデックス錠(4)10T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ポラミン錠(2)1T <皮下注> ^{※1} ①ダラキューロ配合皮下注 15mL/V(3-5分)
3-6サイクル day1、15 <内服>ダラキューロ投与1時間前 ・レナデックス錠(4)10T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ポラミン錠(2)1T <皮下注> ^{※1} ①ダラキューロ配合皮下注 15mL/V(3-5分)
3-6サイクル day8、22 <内服> ・レナデックス錠(4)10T
7サイクル以降 day1 <内服>ダラキューロ投与1時間前 ・レナデックス錠(4)10T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ポラミン錠(2)1T <皮下注> ^{※1} ①ダラキューロ配合皮下注 15mL/V(3-5分)
7サイクル以降 day8、15、22 <内服> ・レナデックス錠(4)10T
全サイクル <内服> レブラミド25mg 分1 寝る前 d1-21